

「学校図書館担当職員の配置及びその活用状況調査」結果

平成26年3月10日
義務教育課

1 調査について

- (1) 調査期日 平成26年1月
- (2) 調査対象 県内59市町村教育委員会

2 調査結果内容

(1) 学校図書館担当職員を配置している市町村（人数）

- ・計16市町村（117名） ※このうち、3市町が次年度から増員を検討

(2) 雇用形態 各市町村により勤務時間、日数等は異なるが、以下のどちらかの形態が多い。

- ・一人の学校図書館担当職員が一校を担当
- ・一人の学校図書館担当職員が複数校を担当

(3) 当該職員が有する資格等について（抜粋）

- ・特になし（司書等の資格は採用要件としない）
- ・配置校にある地域に在住し、学校や地域、児童生徒の実態を理解している。
- ・図書関係の仕事への熱意
- ・学校図書館で勤務経験
- ・図書ボランティアでの実務経験、実績
- ・司書
- ・司書教諭・学芸員
- ・幼稚園教諭、小・中学校教諭免許（等）

(4) 勤務内容（抜粋）

① 児童生徒や教員に対する「間接的支援」に関する職務

- ・学校図書館の環境整備・蔵書管理
- ・配架及び整理業務・推薦図書等の展示・紹介
- ・図書管理（登録・修理・廃棄・新規購入図書の選定等）
- ・読書館だよりの作成による情報提供・広報
- ・公共図書館との業務連携・移動図書館補助（等）

② 児童生徒や教員に対する「直接的支援」に関する職務

- ・利用案内・貸出・図書館利用の際の指導補助
- ・読み聞かせ
- ・読書支援・図書相談（等）

③ 教育目標を達成するための「教育指導への支援」に関する職務

- ・図書館を活用した授業の支援（資料の収集や準備等）

(5) 当該職員を配置したことによる変化（勤務校における教職員や児童生徒の声等）（抜粋）

① 学校図書館の整備環境に関するもの

- ・掲示、図書資料の配架等、児童生徒が訪れたいくなるような学校図書館の環境整備がなされた。
- ・季節を感じる装飾、図書の整理、新刊図書の開架方法等、工夫が行き届くようになった。
- ・推薦図書などを展示し、児童・生徒が図書を借りやすいよう各学校図書館に合わせたレイアウトなども創意工夫しており、児童・生徒の評判もよい。
- ・新刊図書の購入等についてリスト作成等の業務を通して、公共図書館との業務連携を図り、分類・整理方法を市内統一し、活用しやすい環境の整備に努めている。

② 蔵書の管理に関すること

- ・ 図書のデータベース化
- ・ 図書室の本のコンピュータによる整理や管理を行うシステムの整備に努めてもらい、図書室の本の整理や本の貸し出しの管理など大変便利で良くなった。
- ・ 職員の雇用により、図書システムをスムーズに導入することができた。
- ・ 図書台帳の整備が進んだ。
- ・ 購入図書、寄贈図書の受け入れ、蔵書の管理が早く確実にになった。

③ 児童生徒の学習や授業の充実に関するもの

- ・ 教職員や生徒の必要な図書が容易に準備できるようになった。
- ・ 教師の相談により関連図書や発展図書が多く準備され、学習の充実につながっている。
- ・ 昼休み、授業において読み聞かせやアニメーションを実施することで、児童の「聞く、話す」といった言語活動の充実を図ることができた。
- ・ 授業で必要な本について教員から要望があると、適切な本を紹介し、授業作りに大きく貢献した。
- ・ 授業で使う図書の検索や準備など、教師の教材研究や授業実施に大いに役立っている。
- ・ 国語の授業での指導や発展読書に関する担任への助言、図書の準備、児童の読書意欲を高める図書室の環境整備、読み聞かせ、公共図書館や読み聞かせ会との連携など、多種多様にわたって積極的に関わりを持ち、授業の充実と読書の量・質の向上に大きく寄与している。
- ・ 学校図書館の整備充実を図り、教育に必要な図書の整理、資料の収集、保存を行い、児童生徒・教員の利用度を高め、学校教育の向上に効果が見られた。

④ 児童生徒の読書量や興味関心等に関すること

- ・ 学校司書の勤務日には、児童生徒の在校時には、図書館に常に人がいる状況が形成され、休み時間等に図書館を訪れる児童生徒が増えた。
- ・ 図書の貸し出し、稼働率が向上している。
- ・ 月の貸し出し数の統計、長期休業の貸し出し、返却の設定等、児童が借りたり返却したりしやすい環境が計画的に整えられて、利用者及び読書量の増加につながっている。
- ・ 新刊図書の紹介や毎月おすすめの本を紹介するコーナーを設置するなどにより、児童の本に対する興味・関心が高まった。
- ・ 各学校の図書館環境が整い、図書館運営の向上につながっている。また、本の紹介、読み聞かせの実施により、子どもたちの読書への興味・関心が高まっている。
- ・ 図書館の掲示を見やすくしたり、おすすめの本を紹介したり「図書館だより」を定期的に発行したりなど、様々な工夫により読書への興味関心を高めた。また、それにより児童生徒の読書量が増えた。
- ・ 児童生徒からは、図書室の「雰囲気が明るくなった」「居心地がよくなった」等の声があがり、喜んで図書室に通う姿が見られるようになった。結果、読書冊数の向上につながっている。
- ・ 児童の読書相談、図書の紹介等を行い、読書活動の充実を図っている。
- ・ 子どもたちが本を選ぶときに、効率よく探し出せるようになった。

⑤ その他

- ・ 新規図書の受入れ、図書の配架等、司書教諭が担任を兼務している状況では、大きな負担となっていた業務の一部を学校司書が担当することにより、負担軽減が図られ、本来の業務である児童生徒への読書活動の指導に重点的に取り組むことができた。
- ・ 教職員からは、「司書教諭の補助として、新刊図書受入や統計業務の作業が効率よく行えるのでありがたい」「図書館学習への協力等があり大変助かっている」等の声が聞かれる。
- ・ 公共図書館と学校図書館の連携が進んだ。

(6) 今後の見通し（その他、課題や検討策等）

- ・ 設置に向けて要望中及び検討中を合わせて 13市町村

【参考資料】

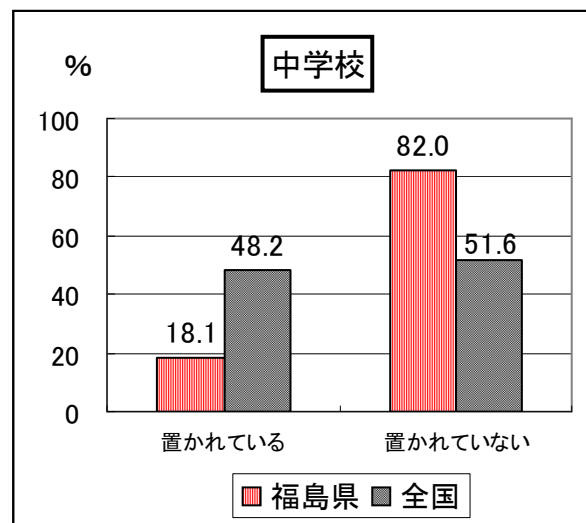
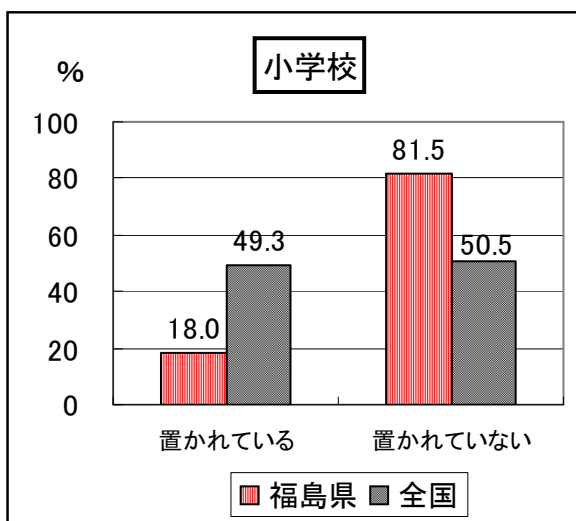
1 学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議について

(文部科学省)

[「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について\(報告\)\(案\)」](#)

2 平成25年度全国学力・学習状況調査(福島県の調査結果)から

学校質問紙「教員以外の職員で学校図書館に関する業務を担当する職員(いわゆる「学校司書」など)が置かれていますか(ボランティア除く)」の回答状況



3 学校図書館関係の地方財政措置について

「第4次学校図書館図書整備5か年計画」(平成24年度～平成28年度までの5か年間)

- 学校図書館の図書の整備 単年度約200億円×5年＝約1,000億円
(内訳) 増加冊数分: 約430億円(単年度 約86億円)
更新冊数分: 約570億円(単年度約114億円)
- 学校図書館への新聞の配備 単年度 約15億円×5年＝ 約 75億円
(内訳) 新聞1紙配備分

- 学校図書館担当職員(いわゆる「学校司書」)の配置 単年度約150億円
(内訳) 1週当たり30時間の職員をおおむね2校に1名程度配置することが可能な規模を措置